

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 19 日現在

機関番号：12703

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2013

課題番号：24653030

研究課題名(和文) 19世紀末から20世紀初頭にかけての国家形成の比較研究 情報管理に注目して

研究課題名(英文) Comparative Research on State Formation from late 19th century to early 20 century

研究代表者

鬼丸 武士 (ONIMARU, Takeshi)

政策研究大学院大学・政策研究科・助教授

研究者番号：80402824

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円、(間接経費) 840,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は東南アジア地域の植民地国家とその宗主国を対象に、19世紀末から20世紀初頭にかけて、「予防」という概念をキーワードにして国家による情報収集、監視活動がどのように組織化され進化したのかを比較検討し、植民地国家建設と宗主国の国家形成を共時的な現象として描き出す視角を得ることを目的とした。研究の結果、東南アジア地域の植民地国家では情報収集活動の制度化が進展していたこと、その程度は宗主国での制度化との関連が見られること、この時期の国家形成・建設を「監視国家(Surveillance State)」の形成過程として捉えることが可能であることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This research project has examined the institutionalization of "state surveillance" in Southeast Asia and Europe comparatively from late 19th century to early 20th century, mainly by focusing on policing, public health, land survey, and registration. As a result of the project, it is revealed that the colonial state building in Southeast Asia in this era could be described as the formation of "Surveillance State", and that European states were also transformed into "Surveillance State".

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治史

キーワード：国家形成 情報管理 東南アジア 植民地国家 国家変容 サーベイランス 比較研究

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は19世紀から20世紀初頭にかけての東アジア、東南アジア地域でのイギリス植民地統治を、主に警察に焦点を当てて研究をおこなっている。その過程で19世紀末から20世紀初頭にかけて、治安維持において「予防」という概念が重視されるようになり、この「予防」の実現のために潜在的に治安を脅かす可能性がある対象についての情報収集(サーベイ)と監視(サーベイランス)をおこなう組織として政治情報警察が設立されたことが明らかになった。さらにこの「予防」の重視により情報収集と監視が組織化されたのは植民地に限られず、本国イギリスでも共時的に進行していたことも判明した。

またこの19世紀末から20世紀初頭の時期に、「予防」が重視され情報収集と監視の組織化が進行していたのは治安維持の分野だけではなく、飯島渉の衛生史の研究[2005]やJohn Torpeyの旅券に関する研究[2000]が示しているように、感染症対策や移動するヒトの身元確認の分野でも同様に組織化が進行していたことがわかった。

これまで、宗主国の国家形成と植民地における国家建設はそれぞれ別のプロセスとして研究がおこなわれてきた。宗主国の国家形成についてはCharles Tilly, *Coercion, Capital, and European States AD 990-1992* (Blackwell, 1992)が代表的な研究であり、ここでは国家形成は極めて長期の歴史的プロセスとして描かれている。その一方で植民地における国家建設は、白石隆が『海の帝国』(中公新書、2000年)で描いているように宗主国によって上から国家が建設されるプロセスとして理解されるのが一般的である。植民地国家の創生期については白石の指摘があたっていることは間違いないが、蒸気船の定期航路や鉄道網、そして電信網など交通・通信インフラが整備され世界が時間的にも空間的にも小さくなった19世紀末から20世紀初頭にかけて、宗主国と植民地国家は共通の課題に直面し、その対処を同じようにおこなっていたのではないかと考え、本研究計画を立案した。

警察史や衛生史などの研究成果が示しているように、治安維持や衛生、身元確認などの分野で、ほぼ同時期に「予防」が重視され国家による情報収集と監視の組織化が進行したということは、この時期に情報を巡る国家の在り方が植民地国家でも宗主国でも同時に変化したことを示していると考えられる。そしてこの「予防」と情報収集、監視の組織化に注目することにより、従来別々に議論されてきた植民地での国家建設と、宗主国の国家形成のプロセスを、情報を管理しようとする国家の確立という点では共時的な現象として描き出すことができるのではないかと考え、本研究計画を立案した。

2. 研究の目的

19世紀末から20世紀初頭にかけて、治安

維持や衛生、そして身元確認(identification)の分野で「予防」という概念が重視されるようになり、情報収集(サーベイ)や監視(サーベイランス)の組織化が進行し、情報を巡る国家のあり方が変容していく。これは植民地国家でもその宗主国でも共時的に進行したプロセスであり、この共時性に注目することにより、従来別々に議論されてきた植民地での国家建設(State Building)と宗主国での国家形成(State Formation)を一体的に捉えることが可能となるのではないかと。本研究は東南アジア地域の植民地国家とその宗主国を対象に、この予防と情報収集、監視の組織化がどのように進行したのかを比較検討し、植民地国家建設と宗主国の国家形成を共時的な現象として描き出す視角を得ることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は二年の研究期間で、東南アジアの植民地国家(蘭領東インド、仏領インドシナ、米領フィリピン、英領マラヤ)とその宗主国(オランダ、フランス、アメリカ、イギリス)を対象に次の二点に関する研究をおこなった。

- (1)「予防」の観点から情報収集と監視の組織化がそれぞれの国家でどのように進展したのか
- (2)情報管理の組織化プロセスの比較検討による、植民地での国家建設と宗主国での国家形成を共時的な現象として捉える分析視角の構築

具体的には、本研究は大きく次の4つのプロセスで遂行した。

- ・研究に関連する文献サーベイとその分析
- ・東南アジア各国やかつての宗主国でのアーカイブ調査
- ・収集した資料やデータの整理と分析
- ・国内研究会での成果の共有と検討、議論

研究活動の全体的な流れは以下のとおりである。まず、「研究の目的」で述べた問題関心に沿って、研究代表者、分担者がそれぞれ自らの担当する国に関する文献をサーベイし、そこでおこなわれている議論の整理と分析をおこなった。

その上で、研究を遂行するために必要となる資料やデータの検索と収集をおこなうために現地調査を実施した。現地調査では警察や衛生、住民の登録、土地の登記、情報収集に関連する法整備、実務を担う行政官の養成などについて、基礎文献資料のマッピングと可能なものについては収集をおこなった。現地調査は、研究代表者の鬼丸がイギリス、シンガポールの公文書館や大学図書館で、研究分担者の岡本がインドネシアで、工藤がフランスの公文書館などで実施した。

本研究で最も力点を置いたのは国内研究

会での議論である。国内研究会では、現地調査や文献サーベイで得られた成果の共有・検討をおこなうと同時に、今後の研究の方向性や、宗主国と植民地国家の国家建設を共時的に描く視角に関する検討をおこなった。さらに研究の深化、拡大のために、関連する分野を扱っている研究者を講師として招き、議論した。国内研究会は 2012 年度には 2011 年 12 月と 2012 年 2 月の 2 回、2013 年度は 2013 年 5 月、6 月、7 月、8 月、11 月、2014 年 1 月の 6 回開催した。2012 年度は研究代表者、研究分担者による文献サーベイの結果の共有、今後の研究の方向性の検討をおこなった。2013 年度は研究参加者による報告のほか、南アフリカ、東南アジア、中東、ヨーロッパを対象に、本研究と関連する内容を研究している若手研究者を講師として招請し、知見の共有と、本研究の目的である分析視角の確立に向けた議論をおこなった。

4. 研究成果

得られた研究成果は以下のとおりである。

まず鬼丸は英領マラヤで共産主義者や華人系住民に対して、植民地政府がどのような情報収集活動をおこなったのかを、政治情報警察と華民護衛署の活動に焦点を当てて、資料の収集と分析をおこなった。その結果、共産主義者に対する情報収集活動は、英領マラヤだけではなく、イギリス帝国全体、さらには近隣の植民地当局との間で収集した情報の共有が積極的におこなわれ、共産主義運動の監視・取り締まりに活用されていたことなどを明らかにした。華人住民に対する情報収集活動については、華民護衛署が発行していた月報の収集をおこない、その分析を始めている。これまでのところ、植民地政府は華人系住民の政治動向や教育に対する中国大陸からの影響を懸念していたことが判明している。この分析は今後も継続する予定である。

岡本は蘭領東インドの特にジャワ島に焦点を当てて、1879 年以降、地方政府の行政官にどのような人物がいていたのかについてのデータ収集をおこなった。これは植民地政府による情報収集活動の担い手がどのような人物であったのかを知る上で、基礎となるデータであり、これまでのところ、植民地期の行政官が独立後も影響力を保持することに成功していたことなどが明らかになった。

工藤はフランス植民地統治下の諸地域における身分制度と人口統計について調査・研究をおこなった。具体的には 19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけての仏領インドシナにおける身分制度を巡る法学上の議論を、理論的文献と判例を用いて検討した。また、人口統計の整備についても、他の仏領植民地との比較を踏まえて考察した。その結果、国家による情報管理の到達度とその粗密が明らかになり、各地域の植民地行政を比較するための基礎的知見が得られた。

以上の研究参加者個々による調査・研究、並びに国内研究会での議論の結果、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて、東南アジア地域での植民地国家、とりわけ英領マラヤ、蘭領東インド、仏領インドシナでは植民地国家による情報収集活動の制度化が進展していたことが明らかになった。また、本国イギリス、フランス、オランダでも程度の差はあれ、情報収集活動の制度化、対象の拡大は見られることも判明した。このプロセスは国家による「監視」の制度化ということができ、この「監視国家(Surveillance State)」の形成という視点から、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての国家形成・建設を分析することは可能であるとの結論を得た。

しかし同時に、国内研究会での議論を通じて、同じ英領植民地でもこの制度化の程度は異なること、さらに宗主国の間でも情報収集活動の制度化がどの程度実効性のあるものであったのかは相違があることが明らかになり、今後はより具体的な事例研究を実施し、その相互比較をおこなうことが必要であることが確認された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

工藤 晶人. 「地中海史の近代 - アルジェリアとフランスの重なりあう歴史」、『UP』、査読無、496 号、2014 年、8 13 頁.

岡本 正明. 「インドネシア政治のいま(1)」、『Jawajapa』、査読無、2013 年 7 月号、6 7 頁.

工藤 晶人. 「現代史の裏面を書くこと - フランスの視点から」、『中国研究月報』、777 号、査読無、2012 年、48 49 頁.

岡本 正明. 「民主化・分権化時代と企業家知事の誕生：インドネシアの辺境から」、『地域から読む現代：グローバル化のなかの人々と社会』、査読無、2012 年、16 19 頁.

岡本 正明. 「慣習継承の政治学：スマトラ二州に見る公的継承プロジェクトの限界」、『民族大国インドネシア：文化継承のアイデンティティ』、査読無、2012 年、221 248 頁.

[学会発表](計 4 件)

鬼丸 武士. 「東南アジアでの植民地国家建設から見えること」、第 4 回地球社会統合科学セミナー、2013 年 12 月 13 日、九州大学.

工藤 晶人. 「地中海の近代を再考する - アルジェリアとフランスの重なりあう歴史」、史学会第 111 回大会、2013 年 11 月 10 日、東京大学.

KUDO, Akihito. “ Le droit foncier dans l’ Algérie du XIXe siècle : discours juridiques et pratiques administrative, ” séminaire “Pour une histoire sociale de l’Algérie colonisée”, 2013 年 10 月 16 日、Centre d’histoire sociale du XXe siècle.

工藤 晶人. 「オリエントは他者か - アルジェリアの東洋学文献を読む」、日仏会館人文社会科学系若手研究セミナー、2013 年 7 月 13 日、日仏会館（東京）。

〔図書〕(計 2 件)

鬼丸 武士. 『上海「ヌーラン事件」の闇：戦間期アジアにおける地下活動のネットワークとイギリス政治情報警察』、書籍工房早山、2014 年、257 頁。

工藤 晶人. 『地中海帝国の片影：フランス領アルジェリアの 19 世紀』、東京大学出版会、2013 年、531 頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鬼丸 武士 (ONIMARU, Takeshi)
政策研究大学院大学・政策研究科・助教授
研究者番号：80402824

(2) 研究分担者

岡本 正明 (OKAMOTO, Masaaki)
京都大学・東南アジア研究所・准教授
研究者番号：90362549

工藤 晶人 (KUDO, Akihito)
学習院女子大学・国際交流学部・准教授
研究者番号：40513156